

会 議 録

会議の名称	平成29年度第2回川越市立美術館協議会
開催日時	平成30年 2月16日(金) 午後 2時00分 開会 ・午後 3時00分 閉会
開催場所	川越市立美術館会議室
議長(委員長・会長)氏名	会 長 宮 澤 光 造
出席者(委員)氏名 (人数)	副会長 梅 津 元 委員 長 江 艶 子 委員 神 山 正 久 委員 井 口 修 一 委員 関 口 恭 裕 委員 山 田 誠 次 委員 尾 崎 勝 美 委員 塚 原 ま り (8 名)
欠席者(委員)氏名	
事務局職員職氏名	館 長 岡 部 秀 子 副館長 永 島 芳 典 副主幹 折 井 貴 恵 指導主事 赤 地 桜
会議次第	1 開 会 2 議 題 (1) 平成29年度上半期事業報告 (2) 平成30年度事業計画 (3) その他 3 閉 会
配布資料	・ 次第 ・ 川越市立美術館協議会委員名簿 ・ 資料1 川越市立美術館データ表 ・ 資料2 川越市立美術館特別展データ表 ・ 資料3 アンケート結果 ・ 資料4 平成29年度教育普及事業記録

- | | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none">・資料5 平成30年度特別展展示予定・資料6 平成30年度教育普及事業記録及び計画・その他 広報川越 平成30年1月10日号
平成30年市民ギャラリー予定 |
|--|---|

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局（館長）	本日の協議会は委員の過半数が出席していますので、川越市立美術館条例施行規則に基づき、会議が成立することを報告します。
会長	1 開会 短い時間ではありますが、年2回の貴重な会議ですので、皆様から多くの御意見をいただきたいと思えます。
事務局 （副館長・副主幹）	2 議題(1) 平成29年度上半期事業報告 資料1「川越市立美術館データ表」について説明 資料2「川越市立美術館特別展データ表」について説明 資料3「アンケート結果」について説明
会長	説明の途中ですが、ここまでで御質問はありますか。
尾崎委員	市民ギャラリーの使用料ですが、7月、11月の収入が0円となっています。どうなっているのでしょうか。
事務局 （副館長）	7月に使用料を収める場合は、8月に市民ギャラリーを使用する団体です。8月は館事業の教育普及事業しかありませんでしたので、収入がなかったということです。11月につきましても同様です。
尾崎委員	図録販売についてです。平成14年度から年間大体100万円以上の収入があるのですが、平成27、28年度については60万円代となっています。今年度はすでに150万円を超えています。平成28年度の11月の図録販売収入は19万4千円となっており、他年度の月と比べてもいい収入となっていますが、これは秋の特別展の影響だと思えます。いずれにしましても、平成27、28年度の図録販売収入の落ち込みについての原因を教えてください。
事務局 （副主幹）	特別展は自主企画と巡回展があります。自主企画は当館で図録を作成・販売しますが、巡回展につきましてもは図録を当館で買い取って販売する場合と、受付看視業務委託受注者による委託販売という2つの方法で販売しています。

	<p>委託販売を行う場合は当館の収入はありません。平成28年度は、春は巡回展で委託販売、夏が自主企画でしたが、諸般の事情により図録の完成が遅れたため売り上げが伸びませんでした。秋は自主企画でしたので収入がありました。冬は巡回展で委託販売でした。図録販売はその年度に作成した図録に限らず、これまで作成したのも受付での販売や通信販売を行なっております。ちなみに今年度は、春は巡回展ですが当館で図録を買い取って販売しました。夏、秋、冬は自主企画ですので、当館で図録を作成しておりますので、収入が増えているという状況です。</p>
尾崎委員	<p>今年度の春は40万円という大きい数字になっていますが。</p>
事務局 (副主幹)	<p>当館で買い取ったものを販売したということです。予算上、これ以上買い取ることができませんでしたので、途中から委託販売に切り替えました。</p>
会長	<p>例年と比較して平成29年度はなぜ全体的に数値が良いのでしょうか。</p>
事務局 (副主幹)	<p>昨年度の当協議会からの御意見を反映し、観覧者数の目標値を設けたのが良かったと思います。観覧者を増やすために館内でもいろいろと話し合うことができ、たとえば市内保育園やデイサービス施設を対象に指導主事や学芸員が展示解説を行いますという御案内を出すなど、これまでになかった試みも実施してみました。</p>
会長	<p>目標値を定めることは来年度も行うのでしょうか。</p>
事務局 (副主幹)	<p>職員のモチベーションを上げるためにも大切なことだと考えています。</p>
会長	<p>アンケート結果についてはいかがでしょうか。</p>
副会長	<p>夏の特別展で、作品の横に観覧者の感想を掲示したことで賛否があったとのことですが、埼玉県立近代美術館においても同様の試みを行ったことがあります。感想については個人の意見が分かれるところなので、正解はないのですが、美術館としてはおよび腰になるところでもあると思い</p>

<p>事務局 (副館長)</p>	<p>ます。しかし意見が分かれるから何もやらないということではなく、マイナスの反応が出ることも想定して実施したということではたいへん意義があると思います。今後、反省点を生かす、改善点を模索していく、そうしたことが大切であると思います。</p> <p>本来ならば夏休みの期間は子ども向けの展覧会を開催するのが一般的だと思いますが、今回は正統派の油絵を展示するというので、どうしたら子どもを呼べるかということを考えてみました。学芸の方で子どもの感想を掲示するのがおもしろいのではないかと、夏休みの学習に利用でき、教育普及事業としてもわかりやすく見せることができるのではないかと、そのような観点から実施しました。オープニングレセプションには市内中学校美術部を招待するなど、通常の展覧会とは違う切り口で実施してみたということでもあります。</p>
<p>長江委員</p>	<p>親子で楽しそうに感想を言い合いながら鑑賞している光景を見まして、たいへんいい企画と思い感心しました。</p>
<p>会長</p>	<p>春の特別展では、写真を撮っていいということでしたが、他の美術館でも撮影禁止場所以外はどこでも撮っていいところが増えています。そうした写真がSNSで紹介されるなどして、広報的な役割を担っていると思うのですが、今回撮影可能にしたことで、美術館としてはどのような感想を持ちましたか。</p>
<p>事務局 (副主幹)</p>	<p>春の特別展は、コレクターがひとりでしたので、その方が撮影してもいいということだったので実現しました。結果、観覧者からはたいへん好評でした。撮影した写真をSNSにあげる際、ハッシュタグ「驚き明治」で投稿してもらいたかったのですが、キーワードが行き届かなかったようで、キーワード付きの投稿を抽出することがあまりできなかったことが残念でした。今回撮影可能でしたので、看視員も撮影の心配をせずに済んだのですが、撮影場所を限った場合その場所以外で撮影される可能性が高くなり、看視員は大変気を遣う必要が生じると考えています。また、SNSが広報的な役割を担うことにつきましては、個人の発信力を上手く利用すれば展覧会の情報はさらに浸透すると考えています。</p>

事務局 (副館長)	<p>以前こうしたケースがありました。ある観覧者が作品の前でスマホを取り出しました。看視員が写真を撮るであろうと思いをかけたところ、その方はスマホで時間を見たかっただけだと、カメラをむき出しで肩から下げている方にはどうして注意しないのかと、そのような御意見をいただいたことがあります。会場にいる看視員の判断も難しくどこでラインを引くかという研究が必要なのではないかと考えております。</p>
尾崎委員	<p>アンケート結果で市内よりも市外から来ている方が多いということですが、観覧者のうち市民の割合というのはこの結果でしかわからないということになります。市外から来た方は市民よりも関心をもってアンケートを書くのではないのでしょうか。したがって、この数字が独り歩きされては困ります。たとえば受付で市内か市外か等の簡単な質問をお訊ねし、正確な数値を捉えることが必要だと思います。</p>
井口委員	<p>私もそのように思います。観覧した方の市内・市外の割合ではなく、アンケートに答えた方の割合が市内よりも市外が多かったということだと思います。もちろん市民の観覧が多いことにこしたことはありませんが、市外の方に対して情報を発信しているという考え方もできると思います。いずれにせよ、市内の観覧者数を増やすためには、市民に対してどのように情報を発信したら有効か、そこを考えることが重要だと思います。</p>
関口委員	<p>先程事務局からの説明で、保育園やデイサービスに声掛けして観覧者が増えているとのことですが、私も県立高校で生徒募集を行ってきましたが、地道な声掛けというのは重要であると考えています。また、川越は観光客が増えているので市外の数値は必然的に多くなると思います。実際に市外の方が足を運んで来てくれているという印象を持っています。</p>
事務局 (指導主事)	<p>資料4「平成29年度教育普及事業記録」について説明</p>
副会長	<p>定員数が書いてある事業は申し込み制だと思いますが、当日自由参加というのもできるのでしょうか。</p>

事務局 (指導主事)	<p>定員が書いてあるものについては、定員に達したものとこの人数しか集まらなかったというものがあります。ジュニアアートスクエアについては、創作室の広さの関係で20人という定員の枠を設けています。</p>
事務局 (副主幹)	<p>2 議題(2) 平成29年度上半期事業報告 資料5「平成30年度特別展展示予定」について説明 資料6「平成30年度教育普及事業記録及び計画」について説明</p>
副会長	<p>春の板橋区立美術館のコレクション展は非常にいいと思います。板橋区立美術館は地道に作品の収集活動を行っており、シュールレアリスムの系譜もあります。改修工事をされるということで、このように川越市立美術館でまとまった作品を観られるのは貴重な機会だと思います。うまく宣伝すれば美術館としてかなりのアピールにつながるものと思います。冬の相原求一朗展ですが、川越市にとって重要な作家なので、節目の年にしっかりした展覧会を行うのは意義深いと思います。秋の乙女デザインについては、タイトル付けがうまいと思いました。宣伝の仕方がポイントになると思います。</p>
塚原委員	<p>教育普及事業に関して、Kart-Tという教員研修を開始したということで、孤立しがちになる美術の教員に対して、美術館が教育相談的な場所になれば心強いと思います。また、毎年遠足で多くの小中学生が川越にきます。そうした小中学生の遠足コースに美術館を入れていただければいいと思っています。さらに、バスのある私立高校についてもバス見学の対象にしてみてもいいと思っています。</p>
井口委員	<p>教育普及事業でバス利用の時間が増えたというのは、私たちが10年程前に立ち上げた頃と比べると、画期的なことだと思います。利用時間が倍増したということでどのようなプログラムを考えているのでしょうか。</p>
事務局 (指導主事)	<p>先生方が鑑賞授業を行うための勉強をする機会になればと思っています。先生方との事前の打合わせを通じてわかったのは、美術館に児童を連れてきてそれで終わりという感覚を持った先生方が多いということでした。したがって、先生方に鑑賞授業の指導提案を行いました。おお</p>

	<p>まかな流れは変えるつもりをありませんが、時間が20分になりますので、その中で鑑賞授業を行えるようにしたいと考えています。これまで慌ただしく行動していたものを落ち着いてできるようになりますので、鑑賞する時間とワークシートを書く時間、そして対話鑑賞を行う時間がとれると思っております。</p>
<p>会長</p>	<p>来年度タッチアートコーナーで斉藤和子さんと海崎三郎さんについては触れる作品を展示すると、「にじいろのさかな」と石上城行さんは触ることができないということでしょうか。</p>
<p>事務局 (副主幹)</p>	<p>「にじいろのさかな」は絵本を展示するので、その場で手に取って読んでいただけます。石上城行さんも作品に触られることに抵抗はないようです。ただし手袋着用になると思います。</p>
<p>事務局 (副館長)</p>	<p>2 議題(3) その他 広報川越 平成30年1月10日号「川越時間旅行」 「川越ゆかりの美の巨匠たち 文化勲章受章者 小林斗盒」について説明 平成30年市民ギャラリー予定について説明</p>
<p>神山委員</p>	<p>アンケート結果の話に戻りますが、マイナス点ばかりを書かせるような設問ではなく、作品を鑑賞してどれが良かった、どの作品を買いたいなど、プラス思考の感想を書いていただいた方がよいと思います。アンケートを書く側にとっても展覧会の復習になり、もう一度観てみようと思うかもしれません。工夫してみてください。また、以前、埼玉県立近代美術館で障害者アートの展覧会を開催していましたが、その展覧会のアンケートで上位10作品を紹介する展覧会を「ギャラリー呼友館」で開催しました。会場にいらした画廊の方や大学教授も展示された作品を高く評価していました。川越市立美術館においても積極的に障害者アートを企画していただきたいと思います。</p>
<p>事務局 (副館長)</p>	<p>一昨年、市民ギャラリーにおいて同内容の展覧会を開催していただきました。今年9月には川越いもの子作業所さんが展覧会を開催する方向で現在話を進めています。美術館としましても、障害者アートの重要性は認識しており、</p>

<p>事務局 (館長)</p>	<p>その会場として、市民ギャラリーを活用していただきたいと思っています。</p> <p>補足となりますが、川越市小中学校特別支援学級・特別支援学校合同作品展や川越市小・中・特別支援学校児童生徒美術展も当館を会場として開催しております。</p>
<p>事務局 (指導主事)</p>	<p>先程御説明させていただいた体験学習ですが、参加していただいたのは中央小学校の特別支援学級の児童で、校外学習の一環として来てもらい、鑑賞だけではなく創作室において創作活動も行いました。</p> <p>3 閉会</p>